

## 南予地域柑橘農業復興対策チーム第13回会議の内容

〔 令和2年11月19日（木）13：30～  
南予地方局7階大会議室 〕

### 1 復旧状況について

(1) 施設面の復旧状況（P3～P5）について関係機関から報告

農道、自動化スプリンクラー、モノレールは、9割以上復旧済み

(2) 生産面の状況について各農協から報告

①JA えひめ南

令和2年産の極早生みかんの出荷量は前年比81%、単価が前年比142%と好調。早生みかんの出荷量は前年比93%、単価が11月16日時点で前年比127%と順調に販売。

②JA ひがしうわ

極早生みかんの出荷量が前年比79%、単価が103%。早生みかんが前年比97%、単価が11月12日時点で前年比113%と順調に販売。

### 2 中・長期的対策について

(1) 園地復旧について

①事業進捗状況と今後のスケジュール

(ア) 農地・農業用施設災害復旧事業（P8～P11）

○宇和島市、西予市

申請のあった原形復旧146件中、10月末時点で109件が業者に発注済みで工事完了は4件。未発注の37件は入札不調などの対策を講じ、年度末までの発注を目指したい。

○西予市

入札不調もなく、現在、全箇所を業者に発注済み。早期完成を目指したい。

○県（農村整備課）

県営幹線水路、園内幹・支線水路、スプリンクラー施設について工事中。今年度末の工事完成を目指している。

(イ) 大規模園地の復旧・復興について（P13～P20）

○県（農村整備課）

再編復旧の玉津地区は、法花津地区と白浦地区において測量設計を実施中。

また、立間地区は、地元から区域外農道や山林などを含めた整備要望があったことから畑地帯総合整備事業を活用し、整備する予定。

(2) 生業支援について

①代替園地の掘り起こしと希望農家への斡旋

○JA えひめ南

園地の貸借希望調査を行った結果、新規に借入希望が3人、貸出希望が1人あり、JA、市、県が連携し、10月に現地ほ場見学会を通じて、マッチングを実施したが、条件が合わず、不調に終わった。今後も関係機関と連携し、随時、調整したい。

○JA ひがしうわ

宇和島市吉田町から西予市明浜町への出作あり。

②早期成園化に向けた大苗育苗や新技術の導入について (P22~P23)

○JA えひめ南

2年生苗木をR3年春に7,000本程度、R4年春に16,000本程度を提供予定。3年生の大苗育苗は、JAとしての取組みが難しいため、(株)玉津柑橘倶楽部等への委託を予定。なお、補助事業を活用して大苗育苗のための施設導入を計画。

また、3月に南柑20号を根域制限栽培実証園に定植し、順調に生育中。

(3)産地力の底上げについて

①紅プリンセスの産地化について (P25)

○県(地域農業育成室)

6月に促進協議会を設立し、産地化に向けた活動計画を協議。吉田町の若手生産者を対象に栽培研究会の開催等による導入啓発活動を展開中。参加者からの反応は良好。

JAえひめ南では、令和4年春に1年生、2年生苗を供給予定。

②補完労働力の確保対策 (P26~P31)

(ア)県(農地・担い手対策室)

新型コロナウイルスの影響による農業での人材不足に対応するため、農業者からの相談、制度周知、人材派遣会社等との調整を行う県農業労働力確保緊急支援協議会を6月に設立し、労働力確保に向けた情報共有や事業の活用に関する相談等を実施中。なお、アルバイトの宿泊費助成などを対象とした県8月補正「みかんアルバイト確保緊急支援事業」について、JAえひめ南、JAにしうわの取組状況を報告。

(イ)JAえひめ南

県内からアルバイト、有償ボランティアを募集した結果、労働力の確保の目途が立ち、収穫作業に影響はない見込み。県・市の補助事業を活用し、宿泊費、感染予防対策、送迎等を実施。

(イ)西予市

お手伝いプロジェクトを開始。生産者13戸が登録し、3戸が申請、現在マッチング中。

(ウ)JAにしうわ(事務局から報告)

県外からの受入は、農家での個別募集を基本に、JAが求人サイトや派遣会社での募集を支援。独自のPCR検査を実施し、新型コロナの防止対策を講じている。県内アルバイトも派遣会社での募集を強化。10月中旬で昨年実績を上回り、収穫作業に影響はない。

③令和2年度柑橘農業復興推進事業 (P32~P33)

(ア)JAえひめ南

簡易トイレ、空調服、早期成園化のための灌水施設などの整備を予定。

(イ)JAひがしうわ

作業受託に必要な機械等の整備を予定。

(ウ)JAにしうわ(事務局から報告)

簡易トイレの整備を予定。

### 3 その他

#### (1) ドローン防除に関する愛媛県の取り組みについて (P35~P38)

##### ○県（果樹研究センター）

ドローン防除の実用化に向け、試験を実施中。殺菌剤、殺虫剤とも薬害の発生は無いことを確認、殺菌剤では防除効果を確認できた。薬液の散布ムラによる殺虫剤の効果不足を確認。今後も実用化に向け、検討。

#### (2) 令和3年度国予算について (P39~P43)

省力樹形や優良品種の導入等支援、果樹優良苗木・花粉安定確保対策、未来型果樹農業等推進条件整備について、次年度の国の予算について説明。ご承知おきのうえ、有効活用いただきたい。